

# 社説

## WUB上海大会

### ウェブ版万国津梁で飛躍を

移民県・沖縄のパワーを発揮する基盤づくりが着々と進んでいる。中国・上海市で開かれた第十一回WUB(ワールドワイド・ウチナンチュ・ビジネス・アソシエーション)世界大会を契機に、連携強化の課題となっていた共通サイトの運用が始まった。

ネット時代に世界を飛躍する多言語ビジネス・ツールの完成だ。世界十七カ国二十一支部に広がるWUBネットの強化に大いに貢献してくれることを期待したい。

WUBは発足した一九九七年のハワイ大会から十年。これまでビジネスマッチングに向けたネットワーク連携強化が課題だった。

上海大会では、ウチナンチュの親睦組織としてのWUBの役割を高く評価する声が出る一方で、

持続可能な組織として今後も継続していくためには「関係者がビジネスで利益を得ないといけない」との切実な意見も出た。毎年世界各国で開催されるWUB世界大会への参加も「会員らにとつて大きな負担」との指摘もあった。費用が高く、収入の少ない若者らの参加が厳しいとの声だ。ビジネス連携組織との名を冠するWUBだ。費用対効果をシビアに求める。経営者、経済人らしい指摘だ。交流組織から交易組織への転換をいかに図るか。母県・沖縄の経済発展を考える上でも重要な視点だ。期待や要望に応えられる組織への転換を図りたい。

版がアップされ、世界の主要ニュースも読める。フォトギャラリーや掲示板など読ませる工夫もある。要望が強い各国県系人らの連絡先を網羅する「パープルページ」も準備中だ。

五百三十人余のWUB会員のみならず、ワールドワイドのビジネス

スチャンスをつかがう県内の企業経営者や若い起業家たちにも、どこどしアクセスしてほしい。

「ウチナンチュに国境はない。百年以上も前に、當山久三が激励し、私たちは五大大陸に根を張った」と、WUB創設者のロバート仲宗根さんは胸を張る。「万国津梁」の鐘に刻まれた銘文の精神を、行動で示してきた海外ウチナンチュたちに敬意を表したい。

時代は船から、航空機、そしてネット時代へと大きく様変わりしている。琉球王朝時代に小さな船でアジアを雄飛し、豊かな大交易時代を築いた。

そしてネット時代だ。ビジネス情報は瞬時に世界を駆けめぐり、観光立県に加え、IT立県も沖縄の目標だ。WUBが実践の場となる。県経済にも寄与できる組織として今後の発展を期待したい。

その意味でも、今回開設された共通サイトの効果が楽しみだ。サイトを開けると四方国語でウチナンチュの活躍が一望できる。沖縄のニュースは本紙のウェブ